

H J K/H J K-Hシリーズ

下吊り用フック

取扱説明書

おねがい

- はかりを安全に正しく使用していただくため、お使いになる前にこの取扱説明書をよくお読みになり、内容を十分理解した上で正しくお使いください。
- この取扱説明書は、お読みになった後も本体の近くに大切に保管し、必要な時にお読みください。

未来をはかる——
新光電子株式会社



はじめに

この度は、弊社製 HJK/HJH-K シリーズ電子はかり及び、下吊り用フックをお買い求めいただき、誠にありがとうございます。

下吊り用フックは、HJK/HJH-K シリーズ電子はかりで床下計量を行う場合に大変便利なものです。

本取扱説明書を良く読んでご使用下さい。

注意！

- ・下吊り用フックを取り付けた状態で平らな面に置かないでください。下吊り用フックが当たり故障の原因になります
- ・下吊り用フックを取り付けた状態では、防塵防水性を担保できないため、液体や粉塵に晒さないでください。下吊りフック用の開口部から液体や粉塵が計量部内部に侵入し、はかりの故障の原因となります。

注記：このオプションは、取引証明用途に使用することはできません。

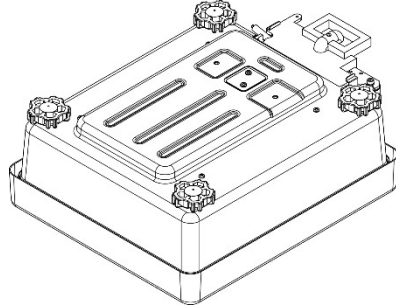
1. 付属品一覧

品名	員数
フック本体	1
ワッシャ	1
下吊り用フック取扱説明書	1

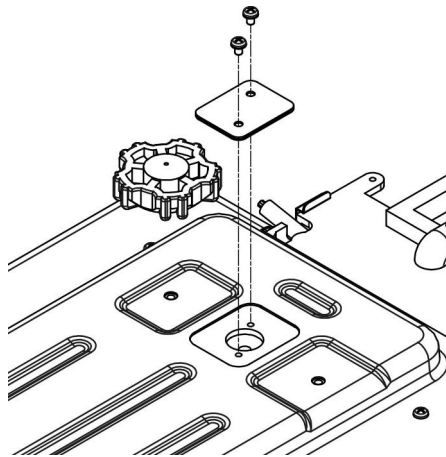
2. 取り付け方

① 計量部を引っくり返す

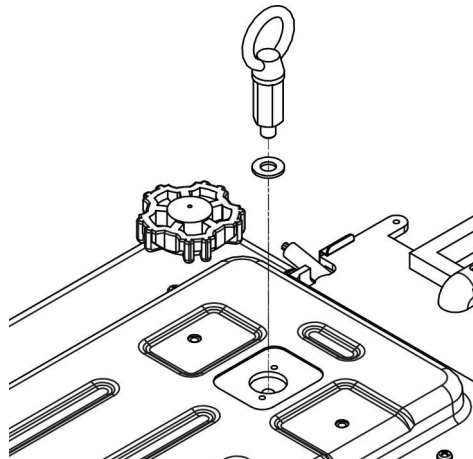
ポール付のはかりは、横向きに寝かせるか、ポールを一度取り外してから引っくり返すか、机等を利用してポール部分に負担がかからないようにしてから引っくり返して下さい。



② 床下計量用孔カバーを外す



③ ワッシャを通し、下吊り用フックを回しながら取り付ける



3. 下皿の重さの調節

① 下吊り用フックに下皿を吊す

② はかりの電源を入れる

(3) 重量表示で<Net>が点灯する場合

→ 測定は出来ませんが、ひょう量まで測定出来ない状態です。必要に応じて、上側の計量皿を外すか、下皿を軽量化して下さい。

(4) <ERROR 706> になる場合

→下皿が重すぎ、または軽すぎです。必要に応じて、上側の計量皿を外すか、下皿を軽量化して下さい。

4. スパン調整について

通常は、下吊りフック及び下皿を取り付けたままスパン調整を実行します。

しかし、上記の<Net>が点灯したままご使用になっている場合、スパン調整/スパンテストを行う時に、次の注意事項 A, B が発生します。

A. 内蔵分銅による半自動スパン調整/スパンテスト、外部分銅によるスパンテストを実施する場合：

<ERR719>が発生し、スパン調整/スパンテストが完了しません。

下皿を取り外してから行ってください。または、スパン調整の場合は、外部分銅によるスパン調整を行ってください。

B. 外部分銅によるスパン調整を行う場合

<Net>が表示されると、計量範囲が縮小されているため、最大ひょう量の外部分銅をスパン調整に使用することができません。<OVER ERROR>が発生しない範囲の外部分銅を使用し、<SELECT WEIGHT>で<VAR>を選択して外部分銅の重量を入力してスパン調整を行ってください。

未来をはかる——

新光電子株式会社

本社・東京：〒173-0004 東京都板橋区板橋 1-52-1
TEL 03-5944-1642 FAX 03-6905-5526

関 西：〒651-2132 神戸市西区森友 2-15-2
TEL 078-921-2551 FAX 078-921-2552

名 古 屋：〒451-0051 名古屋市西区則武新町 3-7-6
TEL 052-561-1138 FAX 052-561-1158

開発・製造：つくば事業所

【修理品受付窓口】

東京サービス係 〒304-0031 茨城県下妻市高道祖 4219-71
TEL 0296-43-8357

関西サービス係 〒651-2132 神戸市西区森友 2-15-2
TEL 078-921-2556

ご購入店